

S	歴史遺産学概論	科目コード： 52119
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産学概論a 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：60 歴史遺産学概論b 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：60	
担当者	a：石神裕之*、栗本徳子、鵜飼均、大林賢太郎、b：石神裕之*、栗本徳子、関孝夫、高島晶彦、比企貴之	

科目概要と到達目標

日本をはじめ世界には、人間が生活するなかで生み出してきた数多くの文化が遺されています。歴史遺産学は、有形・無形の文化遺産を対象として、これらを正しく理解することによって過去の人びとの営みを知り、そこから現在や未来を考える豊かな視座を学ぶとともに、それらをいかに伝え遺していくのか、考える学問です。歴史文化（こころ）や文化遺産（もの）は、さまざまな学問の取り組みがあつてこそ、未来へと引き継がれていきます。そこで講義では、オムニバス形式で複数の担当者が、有形・無形の文化遺産の様相や考え方、自然科学的方法による文化財の理解、保存修復の考え方や手法について論じます。本科目ではそうした文化遺産や歴史文化に関する多様な研究領域を幅広く学び、保存や活用についての知識を養うことを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の理解度（授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか）
2. 学習姿勢・受講態度（授業に積極的に取り組んでいるか）
3. 試験の設問を正しく理解し、答えられているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと授業時の試験による評価とします。

予習・復習

講義前には、身近な歴史的遺産（寺社や建造物、史跡など）や博物館、美術館などにも足を運び、文化遺産や歴史文化への関心をより深めてください。また新聞や雑誌などメディアの情報にも関心を払い、現在の文化遺産や歴史文化に対する社会の動向にも目を配ると、一層理解が深まると思います。講義後は、ノートや配付プリントなどをもとに、講義内容を整理してしっかり復習してください。そして今後の学習につながるよう、関心のある文化遺産や歴史文化の領域についての情報収集を心がけてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	なし

授業計画

【a日程（京都）】

6月29日（土） 瓜生山キャンパス

3講時 歴史遺産学を学ぶこととは 担当者：石神裕之

4講時 文化遺産のものところ1 担当者：栗本徳子

5講時 文化遺産のものところ2 担当者：栗本徳子

6月30日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 無形の文化遺産1（祭礼のころとかたち） 担当者：鵜飼均

2講時 無形の文化遺産2（風流を競う都市—祭礼と民俗芸能） 担当者：鵜飼均

3講時 装潢文化財の保存修理（絵画） 担当者：大林賢太郎

4講時 装潢文化財の保存修理（書跡・歴史資料） 担当者：大林賢太郎

5講時 まとめ、試験 担当者：石神裕之

【b日程（東京）】

6月15日（土） 外苑キャンパス（予定） 担当者：栗本徳子

3講時 歴史遺産学を学ぶこととは

4講時 文化遺産のものところ1

5講時 文化遺産のものところ2

6月16日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 無形の文化遺産1 担当者：関孝夫

2講時 無形の文化遺産2 担当者：関孝夫

3講時 古文書料紙の分析 担当者：高島晶彦

4講時 古文書料紙の分類 担当者：高島晶彦

5講時 まとめ、試験 担当者：比企貴之

受講にあたって

●持参物

・筆記用具、ノート

S	<h1>歴史遺産フィールドワーク1</h1> <h2>鎌倉</h2>	科目コード： 52120
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「歴史文化論3」(S2)、2018年度までに「歴史遺産I-1」(S2)の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産フィールドワーク1(鎌倉) 開催日程：2019年10月19日(土)～2019年10月20日(日) 開催地：東京・神奈川■、受講料：¥10,500、定員：35	
担当者	角田朋彦*、比企貴之、野村朋弘	

科目概要と到達目標

鎌倉といえば、鎌倉時代に栄えた武家の都としてのイメージが強くあるかも知れません。しかし、その鎌倉時代の文化とは、鎌倉武士だけが培ってきたものではなく、同時期の京都の貴族文化や、延暦寺や園城寺、または禅宗といった宗教文化などが流入し、相俟って形成されたものです。続く室町時代に足利将軍が京都に幕府を置くようになって、鎌倉は関東の中心都市として栄えました。また、江戸時代・明治時代になると、観光地・鎌倉としての文化が形成されます。高校までの教科書が取り上げることでイメージされた、現代人が思い描く一面的な鎌倉文化だけではなく、そうした様々な時代・視点に基づいて、鎌倉文化を多面的に考え、理解してもらいたいと思います。

以上のような観点から、①都市鎌倉についての歴史事象を文化の面から理解する②中世鎌倉の文化を理解する③文化や文化財を守る人々と接することで、歴史遺産の重みと大切さを学ぶ④見学や調査に関するマナーを身につける、ことなどを目標にします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の内容を十分に把握し、理解しているか
2. 授業をよく聞き、積極的に研修に取り組んでいるか
3. 授業で習得した知識を使って、論理的なレポートを作成できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みとスクーリングレポートにより、総合的に評価します。

予習・復習

参考文献としてあげた研究書を読み、鎌倉時代とはどのような時代か、鎌倉とは歴史的にどのような場所なのか、など最低限の知識を得ておいてください。

また、この科目では鎌倉文化に関わる古文書を見学します。そのため、本学テキスト『史料演習』の「第6章 史料を調査・整理する」にある古文書の閲覧の基本や、心得などについても予習してください。講義後はノートや配付資料を振り返り、授業内容を整理して復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
------	----------------------

参考文献・URL

『史料演習』 本学テキスト
本郷恵子『日本の歴史6 京・鎌倉ふたつの王権』（小学館、2008年）
山田邦明『日本中世の歴史5 室町の平和』（吉川弘文館、2009年）
日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

授業計画

10月19日（土） 外苑キャンパス 担当者：野村朋弘

3講時 「中世都市」鎌倉で学ぶこと

4講時 鎌倉と京都の交流

5講時 鎌倉の社寺

10月20日（日） 学外 鎌倉のフィールドワーク 担当者：角田朋彦、比企貴之

09：00～12：00 建長寺の見学・座学

12：00～13：00 昼食・移動

13：00～17：00 鎌倉国宝館の見学、鎌倉のフィールドワーク・座学
（鶴岡八幡宮周辺～鎌倉の町場）

● スクーリングレポート

1. 課題 : 「鎌倉文化」を形成したものはどのようなものか。
講義の中でいくつかテーマを示すので、その中から一つを選び論じなさい。
2. 書式・文字数 : ヨコ書き（ワープロ可 *テキスト科目のレポートの書式に準ずる）
1,600～2,000字程度
3. 提出形式（郵送・窓口提出） : スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4. 提出締切日 : [郵送] 11月6日（水）【必着】
[Web] 11月6日（水）13:00【厳守】
5. 提出先 : 郵送提出 : 「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出 : 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（提出締切日の受付時間内）
Web提出 : airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス
「事後課題」ページよりご確認ください。

受講にあたって

●持参物

ノート、筆記用具（必ずHB～Bの鉛筆を用意してください）、クリップボード、履き替え用の白靴下
（寺院・神社内では着用のこと）

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

●諸経費

- ・現地授業にかかる交通費・昼食代は自己負担になります。
- ・イヤホンガイドレンタル料の一部として1,000円（予定）および、寺院での特別研修費の一部として1,000円（予定）をご負担いただきます。後日、指定口座より引き落としとなります。

●その他

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日目は学外での授業となります。集合場所などの詳細は受講許可後、別途通知いたします。
- ・昼食は各自でとっていただきます。
- ・2日目は現地集合・現地解散です。事情により、2日目の解散時間が予定より遅れる場合

があります。解散後の各自の帰路については十分に余裕をもった時間でお考えください。

- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・フィールドワークを行いますので、動きやすく汚れても良い装飾の少ない服装をしてきてください。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・講義内容は、事情により変更する場合があります。

S	歴史遺産フィールドワーク2 大原	科目コード： 52121
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「京都学フィールドワーク6」、2018年度までに「歴史遺産学研修5」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産フィールドワーク2(大原) 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都（学外）■、受講料： ¥10,500、定員：35	
担当者	栗本徳子*	

科目概要と到達目標

大原は、比叡山の西麓に位置する小盆地であるが、三千院をはじめ天台宗の諸寺院が山麓に立ち並び、浄土信仰、聲明などのさまざまな仏教文化を育んだ地です。また古くから歌に詠まれる名所であり、平家物語で知られた安徳天皇の母建礼門院の庵室であった寂光院など、歴史と文学にゆかりの地としても知られています。さらに井原西鶴の『好色一代男』に描かれた江文神社の「大原雑魚寝」の風俗（現在は行われていない）や今も続く「八朔踊り」の習俗など、民俗文化においても特色ある地域です。これらさまざまな歴史文化の重層する地をめぐり、有形無形の文化遺産のありようを考えるとともに、フィールドワークを通して歴史的なものの見方・考え方を身につけること、見学に関するマナーを身につけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか
2. 学外研修時に、マナーやルールを正しく守ることができているか
3. レポートに独自の視点が認められるか
4. 文献などの情報や資料を活用できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みとスクリーングレポートによる評価とします。

予習・復習

講義前に参考文献や事前送付資料等を読んで講義内容について理解を深めるようにしてください。講義後にノートや配付資料を振り返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当作成のプリントを開講前に送付し、授業中にも配付します
参考文献・URL	『京都学』本学テキスト 小堀光詮他『新版 古寺巡礼 京都4 三千院』（淡交社、2006年）

授業計画

10月12日（土） 学外（大原）

- 10：00～11：30 講義：大原の歴史と文化（古代・中世） 担当者：栗本徳子
12：30～16：30 学外研修：勝林院／来迎院／宝泉院／大原三千院

10月13日（日） 学外（大原）

- 10：00～11：30 学外研修：寂光院とその周辺（寂光院の歴史と文化財の焼損について）
担当者：栗本徳子
13：00～16：30 講義：京都近郊の盆踊と八朔踊／古文書からみる大原の近世
担当者：上田寿一

● スクーリングレポート

1. 課題 : 講義とフィールドワークをふまえて、大原の地の歴史文化に関する事柄から関心をもったテーマで自由に書きなさい。＊感想文はレポートと認めません。
2. 書式・文字数：ヨコ書き（ワープロ可 ＊テキスト科目のレポートの書式に準ずる）
1,200～1,600字程度
3. 提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4. 提出締切日 : [郵送] 10月30日（水）【必着】
[Web] 10月30日（水）13:00【厳守】
5. 提出先 : 郵送提出：「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出：瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（提出締切日の受付時間内）
Web提出：airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス「事後課題」ページよりご確認ください。

受講にあたって

● 持参物

- ・ノート
- ・筆記用具（必ずHB～Bの鉛筆を用意してください）
- ・履き替え用の白靴下
- ・クリップボード
- ・事前配布資料

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

● 諸経費

- ・現地授業にかかる交通費・昼食代は自己負担になります。
- ・イヤホンガイドレンタル料の一部として1,000円（予定）、宝泉院の特別拝観料（抹茶・菓子代込み）として1,000円、および寂光院の特別拝観料（焼損後の旧本尊像）として600円をご負担いただきます。後日、指定口座より引き落としとなります。

● その他

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日間とも現地集合・現地解散です。事情により、解散時間が予定より遅れる場合があります。解散後の各自の帰路については十分に余裕をもった時間でお考えください。
- ・集合場所などの詳細は受講許可後、別途通知いたします。

- ・2日間とも昼食は各自でとっていただきます。
- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・寺社の境内は石段など多いため、動きやすい服装・履き慣れた靴をご用意ください。
※但し、華美なものや過度にラフなもの、ノースリーブ、丈の短いスカートやジーンズなどを避け見学先に失礼のない服装。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・授業計画の内容は、事情により変更する場合があります。

S	歴史遺産II-1 文化遺産学基礎	科目コード： 52122
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。 ※2009年度までに「歴史遺産学3」、2014年度までに「文化遺産学1」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・開講地・定員	歴史遺産II-1(文化遺産学基礎)a 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：35 歴史遺産II-1(文化遺産学基礎)b 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：35	
担当者	a：石神裕之*、杉崎和久、b：石神裕之*、津村泰範、宇田川滋正	

科目概要と到達目標

日本には、絵画、彫刻をはじめとする美術工芸品や建造物、発掘された遺物など、多種多様な文化財が存在しています。こうしたいわゆる「モノ資料」は、美術史や建築史的価値はもとより、古来より人間が身の回りのさまざまな素材を利用し、それらを加工する高い技術力を持っていたことを示す歴史資料でもあります。本講義では、多様な文化財を将来にわたって継承していくうえで重要となる、保存・活用の方法や修復技法に関する基礎的な事項について学びます。

具体的には、日本の文化財保護の歴史やまちづくりにおける遺跡、古建築の活用のあり方など、現代的な課題にも目を向けるとともに、地道な文化財修復技術や保存科学の手法についても学び、文化遺産学の幅広い領域について理解を深めていきたいと思えます。また、日本における文化財の特質を理解し、保存・活用のための知識を養うとともに、文化財保護政策の概要とその歴史の変遷を理解すること、また文化財修復技術や保存科学についての基礎的な知識を養うことを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の理解度（授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか）
2. 学習姿勢・受講態度（授業に積極的に取り組んでいるか）
3. レポートの表記と文章表現（客観的な文章で表現し、正確な文字表記をしているか）
4. 具体性（具体的な事例を挙げ、参考文献などを適切に引用しているか）
5. 論点の整理と構成

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みとスクーリングレポートにより総合的に評価します。

予習・復習

講義前に参考文献などを読み、とくに文化財科学に関する専門用語などについては、予め理解を深めるようにしてください。講義後は、ノートや配付された資料などをもとに、講義内容を整理してしっかりと復習してください。とくにスクーリングレポートに取り組む際には、身の回りの文化遺産に目を向けて、学んだことを十分に活かしたレポートとなるように心がけてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	『保存科学概論』本学テキスト 川村恒明監修『文化財政策概論』（東海大学出版会、2002年） 大河直躬・三船康道編著『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり〈改訂版〉』（学芸出版社、2006年）

授業計画

【a日程（京都）】

10月26日（土） 瓜生山キャンパス 担当者：石神裕之

3講時 文化遺産学とは何か

4講時 文化財保護制度の発展と歴史

5講時 文化財保護政策の現状と課題

10月27日（日） 瓜生山キャンパス、学外

1講時 空間を構成する文化遺産 担当者：杉崎和久

2講時 歴史的資産を活かしたまちづくり 担当者：杉崎和久

12：20～13：40 移動・昼食

13：40～15：30 姉小路界限のまちづくり活動 担当者：特別講師・杉崎和久

15：40～17：10 姉小路界限等

● スクーリングレポート

1. 課題 : 以下の2つのうち1つを選び、レポートを提出してください。
 - (A) 文化遺産の種類と関連する研究領域について概略を述べたうえで、具体的な文化財の事例（美術工芸品・建造物・遺跡など）を挙げて、今後の保存・活用に向けてあなたが考えることを述べなさい。
 - (B) 日本の文化財保護制度について、その概略を述べ、問題点を指摘しなさい。

※郵送・窓口提出の場合：表紙レポートテーマ記入欄の右下にA, Bいずれかを明記。
※airUから提出する場合：「タイトル」欄にA, Bいずれかを明記。
2. 書式・文字数：ヨコ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる）
1,200字程度
3. 提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4. 提出締切日 : [郵送] 11月13日（水）【必着】
[Web] 11月13日（水）13:00【厳守】
5. 提出先 : 郵送提出：「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出：瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（提出締切日の受付時間内）
Web提出：airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス「事後課題」ページよりご確認ください。

【b日程（東京）】

7月13日（土） 外苑キャンパス（予定）

- 3講時 文化遺産学とは何か 担当者：石神裕之
4講時 文化財保護制度の発展と歴史 担当者：石神裕之
5講時 文化財保護政策の現状と課題 担当者：宇田川滋正

7月14日（日） 外苑キャンパス（予定）、学外 担当者：津村泰範

- 1講時 文化財建造物の保存と活用（1）—戦後の都市開発との相克—
2講時 文化財建造物の保存と活用（2）—対象の広がり／街並みから近代化遺産まで—
3講時 文化財建造物の保存と活用（3）—保存修理事業の実際／指定文化財—
4講時 文化財建造物の保存と活用（4）—保存修理事業の実際／登録文化財—
16：10～16：50 移動
16：50～17：30 学外研修：丸の内の近代建築活用事例を巡る

● スクーリングレポート

1. 課題 : 以下の2つのうち1つを選び、レポートを提出してください。
(A) 文化遺産の種類と関連する研究領域について概略を述べたうえで、具体的な文化財の事例（美術工芸品・建造物・遺跡など）を挙げて、今後の保存・活用に向けてあなたが考えることを述べなさい。
(B) 日本の文化財保護制度について、その概略を述べ、問題点を指摘しなさい。
※郵送・窓口提出の場合：表紙レポートテーマ記入欄の右下にA, Bいずれかを明記。
※airUから提出する場合：「タイトル」欄にA, Bいずれかを明記。
2. 書式・文字数：ヨコ書き
(テキスト科目のレポートの書式に準ずる) 1,200字程度
3. 提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4. 提出締切日 : [郵送] 7月31日（水）【必着】
[Web] 7月31日（水）13:00【厳守】
5. 提出先 : 郵送提出：「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出：瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
(提出締切日の受付時間内)
Web提出：airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス「事後課題」ページよりご確認ください。

受講にあたって

● 持参物

- ・筆記用具、ノート

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

● 諸経費

- ・現地授業にかかる交通費・昼食代は自己負担になります。
- ・イヤホンガイドレンタル料の一部として1,000円（予定）をご負担いただきます。
後日、指定口座より引き落としとなります。

● その他

【a日程（京都）】

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日目午後は学外研修で現地解散です。事情により、2日目の解散時間が予定より遅れる場合があります。
- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。

- ・動きやすい服装・履き慣れた靴をご用意ください。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・講義計画の内容は、事情により若干変更する場合があります。

【b日程（東京）】

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日目午後は学外研修で現地解散です。
- ・事情により、2日目の解散時間が予定より遅れる場合があります。
- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・動きやすい服装・履き慣れた靴をご用意ください。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・講義計画の内容は、事情により若干変更する場合があります。

S	歴史遺産II-2 文化遺産学特論	科目コード： 52123
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。 ※「歴史遺産II-1」受講後が望ましい。 ※2009年度までに「歴史遺産学8」、2014年度までに「文化遺産学2」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産II-2(文化遺産学特論)a 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：35 歴史遺産II-2(文化遺産学特論)b 開催日程：2019年11月23日（土）～ 2019年11月24日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：35	
担当者	a：石神裕之*、山川暁、山内章、北村繁、b：石神裕之*、栗本徳子、明珍素也、君嶋隆幸	

科目概要と到達目標

本科目では日本の文化財の特質である、有機質の素材を用いた資料の保存や修理に関して、専門的な事項を学びます。具体的には、仏像彫刻、建造物の彩色（a日程のみ）や装こう文化財（b日程のみ）、漆工芸などを対象とします。実際の仏像修理を行っている工房での研修のほか、絵画や彫刻などで重要な膠を用いた修理（a日程のみ）、書・絵画などに用いられる紙や糊を用いた実習（b日程のみ）、漆工芸修理など、実際の修理技術に焦点を絞り、具体的な事例をもとに、日本の文化財保存のあり方について理解を深めてもらいたいと思います。

その上で、それぞれの文化財の特徴や素材にあわせた取り扱い方、状態を判断する能力を養うとともに事例紹介を通じて、保存修復の現場についての理解を深めることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の理解度（授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか）
2. 学習姿勢・受講態度（授業に積極的に取り組んでいるか）
3. 試験の設問を正しく理解し、答えられているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと試験により総合的に評価します。

予習・復習

事前に参考文献などを読み、授業内容について理解を深めるようにしてください。様々な専門用語も多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。また授業の後にはあらためてノートやテキストをふり返し、学んだ内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	『保存科学概論』本学テキスト 鈴木規夫『漆工品の修理』（『日本の美術』第451号、至文堂、2003年） 小松大秀ほか編『漆芸品の鑑賞基礎知識』（至文堂、1997年） 元興寺文化財研究所編『建造物彩色の保存と修復』（クバプロ、2003年）

授業計画

【a日程（京都）】

12月21日（土） 瓜生山キャンパス

3講時 日本の文化財の特質-有機質文化財を事例に- 担当者：石神裕之

4講時 染織文化財とは 素材・加飾・種類 担当者：山川暁

5講時 染織品の保存修復 担当者：山川暁

12月22日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 「江戸時代後期から明治時代前期の絵具類-葛飾北斎を中心として-」 担当者：山内章

2講時 「絵画・彩色資料の保存・調査・修復処置」（膠・顔料を中心として） 担当者：山内章

3講時 漆の基本について(材料、技法、歴史など) 担当者：北村繁

4講時 漆工品の修復について 担当者：北村繁

5講時 漆工品修復の実際とまとめ/試験 担当者：北村繁

【b日程（東京）】

11月23日（土・祝） 午前：外部会場 午後：世田谷区の工房

10：30-12：30 日本の文化財の特質-有機質文化財を事例に- 担当者：石神裕之

14：30-16：30 学外実習：仏像修復工房（仏像の構造、材料、製作技法など保存・修復技術の研修）

担当者：明珍素也

11月24日（日） 外苑キャンパス（予定） 担当者：君嶋隆幸

1講時 東洋絵画の特徴、装こう形式、技法、材料、道具など

2講時 掛軸、絵巻等の修復と装こう例

3講時 和紙の裏打ち実習基礎 1

4講時 和紙の裏打ち実習基礎 2

5講時 修復の用具の管理と整理実習とまとめ/試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具・ノート

●諸経費

【b日程（東京）】

・現地授業にかかる交通費・昼食代は自己負担となります。

・教材費（裏打ちに用いる紙・糊など）として、別途2,000円程度が必要です。

後日、指定口座より引き落としとなります。

●その他

【b日程（東京）】

- ・1日目は工房へのアクセスに適した外部会場で授業を行います。詳細は受講許可後、別途通知いたします。
- ・1日目は現地解散となります。
- ・2日目は水と糊を使用した実習を伴います。汚れても良い服装や履物で臨んでください。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・2014年度以前の「文化遺産学1a・b」を履修されている場合、本講義の1日目における工房研修の内容が重複する可能性がありますので、ご注意ください。
- ・授業の計画内容は、事情により若干変更する場合があります。

S	歴史遺産II-4 日本の世界遺産	科目コード： 52124
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文化遺産学4」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産II-4(日本の世界遺産) 開催日程：2019年6月9日(日)～2019年6月10日(月) 開催地：滋賀■、受講料：¥10,500、定員：35	
担当者	栗本徳子*、石神裕之	

科目概要と到達目標

ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されている「古都京都の文化財」のひとつとして比叡山延暦寺があります。本スクーリングでは比叡山延暦寺をたずね、現地での講義ならびに有形、無形の文化遺産を実見することによって、その意義と問題点を考えます。具体的には1泊2日のスクーリングで比叡山の宗教文化の歴史を学び、比叡山の東塔、西塔、横川をフィールドワークするほか、日本音楽の源といわれる「聲明」を本来の典礼の場で聴くために、合行曼荼羅供に臨座します。こうした実体験を交えて、世界遺産としての比叡山延暦寺を多角的に理解することを目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握、理解しているか
2. 学外研修時に文化遺産に接するマナーやルールを正しく守ることができているか
3. レポートで、授業を踏まえたうえで、各自のテーマを深めて論じられているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと、スクーリングレポートによる評価とします。

予習・復習

以下の文化庁の「文化遺産オンライン」の「世界遺産と無形文化遺産」HPから、「世界遺産の概要」と「登録までの手続き」「世界遺産条約履行のための作業指針」を熟読し、世界遺産登録について理解しておくこと。また「古都京都の文化財」および、他の登録例についての情報にも目を配り、日本の世界遺産の特色を捉えておいてください。

http://bunka.nii.ac.jp/jp/world/h_index.html

講義前に事前送付資料や参考文献などを読んで、講義内容について理解を深めるようにしてください。講義後にノートや配付資料などを振り返り、授業内容を整理してしっかりと復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを開講前に送付し、授業中にも配付します
参考文献・URL	大河直躬編『都市の歴史とまちづくり』（学芸出版社、1995年） 渡邊守順『比叡山延暦寺—世界文化遺産—〈歴史文化ライブラリー55〉』（吉川弘文館、1998年）

参考文献・URL	『比叡山 ー日本仏教の母山ー〈別冊太陽〉』（平凡社、2006年） 景山春樹『比叡山〈角川選書〉』（角川学芸出版、1975年） 佐藤 信編『世界遺産と歴史学』（山川出版社、2005年） 古田陽久・古田真美『世界遺産ガイドー日本編ー2008改訂版ー』（シンクタンクセ とうち 総合研究機構、2007年） 日本音楽叢書三『聲明〔一〕』（音楽之友社、1990年）
----------	--

授業計画

6月9日（日） 学外（延暦寺）
 12:15 延暦寺バスセンター 集合
 12:30～14:00 講義 延暦寺の歴史（最澄～源信） 担当 栗本 徳子
 14:10～15:40 東塔拝観 ※根本中堂修理現場見学
 16:10～17:10 特別講義 比叡山の修行と千古の法儀
 17:10～17:40 チェックイン
 17:40～18:20 夕食
 18:20～20:00 講義 世界遺産としての比叡山延暦寺 担当 石神 裕之
 ＊この日の深夜、回峯行者の方からお加持をいただく（希望者のみ）。

6月10日（月） 学外（延暦寺）
 （任意参加）5:30～ 7:20 坐禅（5:30～6:30）、法話（6:30～7:10）於根本中堂
 07:20～ 8:00 朝食
 08:00～ 8:30 チェックアウト
 08:30～ 9:30 特別講義 聲明と六道講式について
 10:00～10:50 学外研修 横川拝観（如法塔～横川中堂～恵心堂～四季講堂）
 11:00～12:20 学外研修 聲明を聴く（六道講式）
 13:10～13:50 昼食
 14:10～15:20 西塔拝観（にない堂～釈迦堂～相輪櫓～浄土院）
 15:30～16:10 国宝殿拝観
 16:20～16:30 授業のまとめ
 16:30 延暦寺会館 解散（現地解散）

● スクーリングレポート

1. 課題 : 比叡山延暦寺の文化遺産としての意義について現地研修を踏まえて論じ、今後の文化遺産の保存継承について世界遺産登録の意義と問題点にも触れながら、あなたの考えるところを述べてください。
2. 書式・文字数 : ヨコ書き
(テキスト科目のレポートの書式に準ずる) 2,000字程度
3. 提出形式 (郵送・窓口提出) : スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください (添削指導評価書は不要)。
4. 提出締切日 : [郵送] 6月27日 (木) 【必着】
[Web] 6月27日 (木) 13:00 【厳守】
5. 提出先 : 郵送提出 : 「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出 : 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
(提出締切日の受付時間内)
Web提出 : airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス「事後課題」ページよりご確認ください。

受講にあたって

●持参物

- ・ノート・筆記用具（必ずHB～Bの鉛筆を用意してください）・履き替え用の白靴下・学生証・健康保険証・宿泊に必要な着替えや洗面用具など事前配布資料

※朝晩は冷える場合もありますので、気温・天候の変化に備えた準備をしてください。

（タオル、帽子、雨具など）

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

●諸経費

- ・現地授業にかかわる諸経費として別途20,000円程度が必要となります。（内訳：2日目昼食代、1～2日目1泊2日分の宿泊代と夕朝食代、写経費用・イヤホンガイド代）後日、指定口座より引き落としとなります。

当日欠席した場合は宿泊費・昼食代・写経・座禅・イヤホンガイドの代金をふくめ全額負担となりますのでご注意ください。

●その他

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・延暦寺の宿坊（延暦寺会館）に1泊します（4～5名の相部屋となります）。お寺での研修というかたちでの宿泊になります。※詳細は受講許可後に別途通知いたします。
- ・寺院見学の際は、ルールを守り、施設の関係者や教員の指示に従って行動してください。
- ・初日は、昼食を済ませてから集合してください。
- ・二日目早朝の根本中堂における座禅は、任意参加となります。参加費用（¥1,500程度）は対象者のみ後日引落となります。座禅用の腰に敷く座布団は延暦寺でご用意くださいます。座ることができない方は、事前にご相談ください。
- ・声明を聴く間は、長時間座ることになります。正座椅子など、必要な方は各自持参してください。なお座ることができない方は、事前にご相談ください。
- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・寺社の境内は石段なども多いため、動きやすい服装・履き慣れた靴をご用意ください。※但し、華美なものや過度にラフなもの、ノースリーブ、丈の短いスカートやジーンズなどを避け見学先に失礼のない服装。
- ・授業中につき、許可がある場合を除き写真撮影は禁止です。
- ・授業中の飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・講義内容は、事情により変更する場合があります。
- ・授業終了後、下山の際は坂本ケーブル（大津方面）を用いて各自下山してください。授業終了時間に利用できるバス等はございません。予め帰路のルートをご確認ください。

S	歴史遺産III-1 美術資料調査方法論	科目コード： 52125
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。 ※2009年度までに「歴史遺産学11」、2014年度までに「資料調査方法論1」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産III-1(美術資料調査方法論)a 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：35 歴史遺産III-1(美術資料調査方法論)b 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：35	
担当者	a：高梨純次*、栗本徳子、b：土屋貴裕	

科目概要と到達目標

美術資料は、美術史だけでなく歴史資料としても近年盛んに取り上げられています。「卒業研究」のテーマによって活用する可能性のある資料を、実際に自分で手に取って調査するための基本的な心構え、知識、技術を学びます。基本的な絵画や彫刻の美術史を概観したうえで、実物資料を実際に使ってグループで調査に取り組み、その基礎を体験的に学びます。
この授業では文化財の取り扱い方や、調書を作成する力を身につけることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の理解度（授業の趣旨と内容を正確に把握・理解しているか）
2. 授業への取り組み（授業に積極的に取り組んでいるか）
3. 課題での達成度（学習の成果とその深度が課題でどの程度発揮できているか）
4. 授業内容をふまえ試験問題に解答ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと試験による評価とします。

予習・復習

事前に参考文献などを読んで、講義内容について理解を深めるようにしてください。講義後にノートを振り返り、講義内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	『日本美術史』本学テキスト 栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇I』（藝術学舎、2013年）※この本は「airU」上で電子テキストを参照することが可能です。『airU学習ガイド』を確認してくだ

参考文献・URL	さい。 b日程のみ：東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室編『図解 日本画用語事典』（東京美術、2007年） 日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』（ぎょうせい、2012年）
----------	--

授業計画

【a日程（京都）】

● 授業内容

この授業では、仏像を中心とした日本の彫刻を文化財としてとらえる場合、どのような基礎的知識が必要になり、どのように調査することが求められるのかを、講義と演習を通じて学びます。

授業では、実測や調書の作成、写真撮影などを通じて、調査方法の概略を体験的に学習します（小さなものですが、本物の仏像も教室に登場します）。

8月10日（土・祝） 瓜生山キャンパス 担当者：高梨純次

3講時 仏像調査へのアプローチ

4講時 仏教彫刻の概要（文化財調査の基礎知識）

5講時 仏教彫刻の流れ（時代の特色を考える）

8月11日（日） 瓜生山キャンパス 担当者：高梨純次、栗本徳子

1講時 調書と資料写真の読解に挑戦する

2講時 仏像彫刻の取り扱いと調書作成（1）

3講時 仏像彫刻の取り扱いと調書作成（2）

4講時 仏像彫刻の写真撮影、

5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

● 授業内容

この授業では絵画資料をどのように調査することが求められるのかを講義と演習を通じて学びます。授業では卷子や掛軸の取り扱いや調書の作成、写真撮影などを通じて、調査方法の概略を体験的に学習します。

10月26日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 日本絵画の形状・素材（1）

4講時 日本絵画の形状・素材（2）

5講時 日本絵画の歴史（1）

10月27日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 日本絵画の歴史（2）

2講時 作品調査の事前準備

3講時 美術品取扱実習—卷子・掛幅（掛軸）—

4講時 美術品調査実習—写真撮影、調書の取り方—

5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

・ノート・筆記用具（必ずB～2Bの鉛筆を用意してきてください）・クリップボード・マスク・作業のしやすい服装

●その他

- ・実習では仏像（a日程）、卷子・掛軸（b日程）などに実際に触れますので、以下のことについて厳守してください。
 - ①授業中は教室内での飲食はしないでください（※特に実習中は厳禁）。
 - ②筆記用具は鉛筆を使用してください（※インクの出るものやシャープペンシルは一切不可）。
 - ③服装については、衣服はひっかかるなどしてモノを傷める、作業の妨げになるなどということのないよう、身体にフィットした身動きのとりやすいものを着用、履物は万が一の転倒を防ぐためヒールの無い底の平らなものにしてください。また、指輪やネックレス、ピアスなどのアクセサリ類や腕時計は外し、爪は短く切っておいてください（マニキュアは厳禁）。また、髪の毛の長い方は束ねたりとめたりできるようにゴムやピンをご用意ください。
- ・講義内容は、事情により変更する場合があります。

S	歴史遺産III-2 民俗資料調査方法論	科目コード： 52126
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。 ※2009年度までに「歴史遺産学11」、2014年度までに「資料調査方法論2」の単位を修得済みの場合、受講できません。	
開講日程・開講地・定員	歴史遺産III-2(民俗資料調査方法論)a 開催日程：2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：35 歴史遺産III-2(民俗資料調査方法論)b 開催日程：2019年9月28日（土）～ 2019年9月29日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30	
担当者	a：鶴飼均*、石神裕之、b：高久舞	

科目概要と到達目標

民俗文化財は、衣食住、生業、信仰や年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術およびこれらに用いられる衣服や器具、家屋など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承で人々の生活の推移を示すものです。

本科目では歴史や文化研究における民俗資料の活用法の一端を修得し、調査に関する技術とマナーを身につけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の理解度（授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか）
2. 学習姿勢・受講態度（学外研修時、マナーやルールを正しく守ることができているか）
3. 授業への取り組み（実習や演習の際、積極的に取り組んでいるか）

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みとスクーリングレポートによる評価とします。

予習・復習

スクーリングの前に、参考文献などを読み、民俗学に対する予備知識をもつことが望ましく、授業の後にはこれらを再読して民俗学への理解を深めてください。授業後は配付資料や現地フィールドワークで得たものなどを振り返り、復習しましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	井之口章次『民俗学の方法』（講談社、1977年） 福田アジオ・宮田登編『日本民俗学概論』（吉川弘文館、1983年） 新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社、1999年）

参考文献・URL	小川直之『日本の歳時伝承』（アーツアンドクラフツ、2013年） a日程のみ：上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登編『民俗調査ハンドブック』（吉川弘文館、1987年）
----------	--

授業計画

【a日程（京都）】

● 授業内容

本科目では、フィールドにあるモノ資料（道標・石灯籠など）とそれらの背景にある伝承など人々の営為を探ることによって、そのモノ資料に宿っているものを立体的に提示できる知識と自分ならではの地域資源を見出す感性・創造性を磨き、それを地元へ帰って活かす能力を養うことを目標とします。

2日目は、嵯峨から清滝に抜ける愛宕さんへの表参道をフィールドとします。午前中は、嵯峨釈迦堂前の道標をはじめとする石造文化財の実測、写真撮影、拓本実習を行い、嵯峨大念仏狂言（国指定重要無形民俗文化財）の演技の見学や演者への聞き書き実習、能面の実測や装着体験を実施する予定です。午後は、かつて愛宕詣りの参詣客でにぎわった清滝に移動し、受講生の皆さんなりの視点で、当該地域を巡見し、活かせる資源を見出してもらい、その活用方法をそれぞれプレゼンしてもらいます。

● スケジュール

9月21日(土) 瓜生山キャンパス 担当者：鵜飼均

3講時 民俗学とは

4講時 民俗調査を実施するにあたって

5講時 愛宕信仰とフィールドワーク

9月22日(日) 学外 「愛宕さんの参詣道を訪ねる」 担当者：鵜飼均、石神裕之

9：00 嵯峨釈迦堂（清涼寺）門前集合

9：00～12：00 講義・聞き書き調査など（清涼寺内にて）

嵯峨釈迦堂（清涼寺）周辺のフィールドワークおよび調査（拓本実習・採寸）

清涼寺 → 清滝（京都バスで移動）

12：50～14：50 調査に関する概要のレクチャー、調査（聞き書きなど）

清滝フィールドワーク

14：50～16：00 発表・まとめ

● スクーリングレポート

1. 課題 : フィールドワークを通じて学んだことを基に、廃絶したもの、廃絶したこともすでに忘れられているもの、他所の人でないと気がつかないものなど自分なりの価値付けを行い、それをどう活かせばよいのかなどを具体的に示してください。

*学外授業時に作成していただく「調査カード（石造文化財調査カード・有形文化財調査カード）」も提出してください。

2. 書式・文字数：ヨコ書き

（テキスト科目のレポートの書式に準ずる）1,200字程度

3. 提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。

4. 提出締切日 : [郵送] 10月9日（水）【必着】

5. 提出先 : 郵送提出：「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛

窓口提出：瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口

（提出締切日の受付時間内）

※a日程のスクーリングレポートはWeb提出（airUからの課題提出）ができません。

【b日程（東京）】

● 授業内容

本科目では、民俗学研究実践への第一歩として、多様な民俗資料の広がりや調査方法を学びます。初日は調査方法を講義し、民俗資料から生活の歴史を読み取る基礎を学びます。

2日目は具体的な民俗資料をもとに、生活の歴史を読み取るための資料化の手続きについて実地に学びます。見学する2008年にオープンした大森海苔のふるさと館には、国の「重要有形民俗文化財」に指定された海苔の生産用具が展示されています。こうした民俗資料を中心に学修を行います。また、博物館のバックヤードも見学させていただきます。

● スケジュール

9月28日（土） 外苑キャンパス

民俗調査の方法1

3講時 民俗学のフィールドワーク

フィールドワークの方法。民俗学に必須であるフィールドワークについて講師の体験とともにその方法を学びます。

4講時 文献利用の方法1

市町村史や自治体の報告書などの資料を用いて、民俗の空間的な広がりを理解する方法を学びます。

5講時 文献利用の方法2

「月次風俗図屏風」などの絵画資料を用いて、視覚的視点から民俗の歴史的な深度を理解する方法を学びます。

9月29日（日） 学外（大田区立大森海苔のふるさと館）

民俗調査の方法2

09：45～12：00 民俗資料を学ぶ

民俗資料にはどのようなものがあるのか、その資料はどのような手続きを経て、博物館資料となっているのかを学びます。

13：00～15：30 資料研究を学ぶ

資料研究はどのようにして行うのか、資料からどのように生活の歴史を読みとるのかを学びます。

15：40～17：00 民俗文化財の内容と諸問題

地域に伝わる有形・無形の民俗文化財について具体的に紹介し、文化財をめぐる諸問題や文化財の活用などについて学びます。

● スクーリングレポート

1. 課題 : 2日間の授業の内容から、興味をもったテーマについてまとめてください。

2. 書式・文字数 : ヨコ書き

(テキスト科目のレポートの書式に準ずる) 1,200字程度

3. 提出形式 (郵送・窓口提出) : スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください (添削指導評価書は不要)。

4. 提出締切日 : [郵送] 10月16日 (水) 【必着】

[Web] 10月16日 (水) 13:00【厳守】

5. 提出先 : 郵送提出 : 「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛

窓口提出 : 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
(提出締切日の受付時間内)

Web提出 : airUから提出する場合は、airUマイページ各科目シラバス「事後課題」ページよりご確認ください。

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

- ・ノート、筆記用具、クリップボード、直定規（30センチ程度）、撮影できる機器（デジタルカメラ・携帯電話）

＊調査を行いますので、動きやすく、汚れても良い、装飾の少ない服装をしてきてください。

底の平らな運動靴が望ましい。

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

【b日程（東京）】

- ・ノート・筆記用具、クリップボード、直定規（30センチ程度）

＊調査を行いますので、動きやすく、汚れても良い、装飾の少ない服装をしてきてください。

底の平らな運動靴が望ましい。

- ・持参できる方はデジタルカメラ

※詳細は受講許可後に別途通知いたします。

●諸経費

- ・現地授業にかかる交通費・昼食代は自己負担になります。

●その他

【a日程（京都）】

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日目は現地集合・現地解散です。事情により、2日目の解散時間が予定より遅れる場合があります。解散後の各自の帰路については十分に余裕をもった時間でお考えください。
- ・学外研修（清滝）では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・授業内容は、事情により変更する場合があります。

【b日程（東京）】

- ・本スクーリングは、実地見学を交えた授業のため、時間割が変則になります。
- ・2日目は現地集合・現地解散です。集合場所などは受講許可後に別途通知いたします。事情により、2日目の解散時間が予定より遅れる場合があります。解散後の各自の帰路については十分に余裕をもった時間でお考えください。
- ・学外研修では徒歩で移動を行います。
- ・杖を利用されるなどご相談があれば、スクーリング申込前に事務局にお問い合わせください。
- ・研修先での飲食は厳禁です。
- ・『コースガイド』の「学外スクーリングを受講される方へ」に必ず目を通し、学外研修時のマナーを理解して受講してください。
- ・授業内容は、事情により変更する場合があります。

S	歴史遺産III-3 史料講読・中世～近世	科目コード： 52127
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産III-3(史料講読・中世～近世)a 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月4日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：40 歴史遺産III-3(史料講読・中世～近世)b 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：40	
担当者	a：岩田真由子、青谷美羽、b：比企貴之、高見澤美紀	

科目概要と到達目標

歴史を研究する際に最も重要なのは史料を読み解く力です。この授業では、みなさんが古代・中世の史料を読むための基礎を身につけることを目指します。中世・近世の史料を読むための基礎的な知識や史料に出てくる語句の調べ方を学び、グループごとに辞典類を用いながら史料を読む学習（史料の書き下し、現代語訳）を行います。また、史料からどのような情報を引き出すことができるのか、史料の背景を考えながら読むことについても学びます。

本科目では史料を読み解くための基礎力の向上を目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題に積極的に取り組んでいるか（出来不出来は評価の対象としない）
2. 授業の趣旨を正しく把握し、理解しているか
3. 授業をよく聴いているか
4. 授業に積極的に取り組んでいるか
5. 授業内容をふまえて試験問題に解答ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと授業時の試験による評価とします。

予習・復習

本学テキストの『史料演習』や『京都学史料』に目を通し、史料はどのようなものかを確認し、史料の読み方を予習してください。また、当日までに、事前送付されるテキストに目を通し、事前課題については書き下しを行い、意味を把握してください。自分の解らない部分や疑問点を明らかにして講義に臨みましょう。講義後はノートやテキストを振り返り、講義内容を復習しましょう。史料を読めるようになるには、語学と同じく継続して学習することが必要不可欠です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを開講前に送付し授業中にも配付します
------	------------------------------

参考文献・URL

本学テキスト『史料演習』
本学テキスト『京都学史料』

課題

● 事前課題

1. 課題 : 受講許可後スクーリング開講日の約1ヶ月前に史料講読のテキストを送付します。
テキストはスクーリングで使用するものですが、その冒頭に事前課題の詳細を提示していますので、締切日までに提出してください。
事前に史料を読むことで、史料の読み方や調べ方についての課題意識を持って授業に臨んでもらいます。
2. 書式 : タテ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる。）
3. 提出締切日 : a（京都）7月20日（土）【必着】
b（東京）12月7日（土）【必着】
4. 提出先 : 郵送提出「通信教育部教務課」宛
窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（窓口受付時間内）

授業計画

【a日程（京都）】

- 8月3日（土） 瓜生山キャンパス 担当者：岩田真由子
3講時 中世史料の読み方について
4講時 中世史料の講読—古記録を中心に—
5講時 中世史料の講読—古文書を中心に—

- 8月4日（日） 瓜生山キャンパス 担当者：青谷美羽
1講時 中世近世移行期の史料を読む 1
2講時 中世近世移行期の史料を読む 2
3講時 近世の史料を読む 1
4講時 近世の史料を読む 2
5講時 総括／試験

【b日程（東京）】

- 12月21日（土） 外苑キャンパス（予定） 担当者：比企貴之
3講時 中世の文献史料～中世史料の系譜～
4講時 活字化された中世の古文書を読む
5講時 活字化された中世の古記録を読む

- 12月22日（日） 外苑キャンパス（予定） 担当者：高見澤美紀
1講時 近世社会と文書～近世史料の形式と作成の流れ～
2講時 近世の政治に関わる活字史料を読む
3講時 近世の都市に関わる活字史料を読む
4講時 近世の村に関わる活字史料を読む
5講時 まとめ／試験

受講にあたって

● 持参物

筆記用具、ノート、漢和辞典

※辞典は任意のもの、電子辞書でも可

●その他

史料を読むことが初めてであるという方は、芸術学科専門教育スクーリング科目「文献資料講読」を先に受講されることをおすすめします。

史料を読めるようになるためには、語学と同様に継続して学習することが必要不可欠です。芸術学科専門教育テキスト科目「史料学基礎」「史料講読基礎」、歴史遺産コース専門教育科目「史料講読応用」などにも是非、取り組んでみてください。

なおステップアップのための履修の順などについては、『コースガイド』の「カリキュラムマップ」を参照してください。

S	歴史遺産III-5 古文書研究	科目コード： 52128
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a（京都）、b（東京）の2日程開講。いずれかを選択してください。 ※2014年度までに「古文書研究2」の単位を修得済みの場合、この科目を履修できません。	
開講日程・ 開講地・定員	歴史遺産III-5(古文書研究)a 開催日程：2020年2月22日（土）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：40 歴史遺産III-5(古文書研究)b 開催日程：2020年1月18日（土）～ 2020年1月19日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：40	
担当者	a：平良聡弘、b：堀越祐一	

科目概要と到達目標

本科目では、中世・近世の古文書を理解するための基礎を学びます。歴史を研究する上で、古文書を含む「史料」の読解は必要不可欠です。中世・近世の各時代の古文書を読み解く方法を学びます。本科目では古文書を読むための基礎力の向上を目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前学習への取り組み（事前学習に積極的に取り組んでいるか）
（出来不出来は評価の対象とはしないが、学習を怠った場合は減点の対象とする）
2. 授業の理解度（授業の趣旨を正しく把握し理解しているか、試験含む）
3. 学習姿勢・受講態度（授業をよく聴いているか）
4. 授業への取り組み（演習の際、積極的に取り組んでいるか）
5. 授業内容をふまえて試験問題に解答ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと試験による評価とします。

予習・復習

講義前に本学テキスト『史料演習』・参考文献などを読んで、講義内容について理解を深めるようにしてください。また、さまざまな専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。講義後にノートやテキストを振り返り、講義内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に随時配付します。
参考文献・URL	本学テキスト『史料演習』 児玉幸多編『くずし字解説辞典』（東京堂出版） 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）

参考文献・URL	小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典〔第二版〕（全14巻）』（小学館） 日本歴史学会（編纂）『演習古文書選 様式編』（吉川弘文館） 日本歴史学会（編纂）『演習古文書選（近世編）』（吉川弘文館）
----------	---

課題

● 事前課題

【a日程（京都）】

1. 課題 : 古文書の釈文（翻刻）と現代語訳を作成し、提出していただきます。
どの程度の読解力があるかを確認するためのものですから、初めての方でも臆さず取り組んでください。受講許可後スクーリング開講日の約1ヶ月前に送付します。
2. 書式 : タテ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる。）
3. 提出締切日：2月10日（月） 【必着】
4. 提出先 : 郵送提出「通信教育部教務課」宛
窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（窓口受付時間内）

【b日程（東京）】

1. 課題 : 本学テキスト『史料演習』第2章を参考にしながら、事前に送付する古文書の写真（コピー）から釈文（翻刻）を作成し、提出していただきます。
どの程度の読解力があるかを確認するためのものですから、初めての方でも臆さず取り組んでください。受講許可後スクーリング開講日の約1ヶ月前に送付します。
2. 書式 : タテ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる。）
3. 提出締切日：1月7日（火） 【必着】
4. 提出先 : 郵送提出「通信教育部教務課」宛
窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口
（窓口受付時間内）

授業計画

【a日程（京都）】

●スケジュール

2020年2月22日（土） 瓜生山キャンパス 担当者：平良聡弘

- 3講時 古文書を読み解くための基礎知識／事前課題の確認
4講時 往来物を読む
5講時 大名家の文書を読む

2020年2月23日（日） 瓜生山キャンパス 担当者：平良聡弘

- 1講時 公家の日記を読む
2講時 地方文書を読む
3講時 風聞留を読む
4講時 坂本龍馬の手紙を読む
5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

●スケジュール

1月18日（土） 外苑キャンパス（予定） 担当者：堀越祐一

- 3講時 古文書を読む際に留意すべきこと

4講時 織田信長文書を読む

5講時 豊臣秀吉文書を読む

1月19日（日） 外苑キャンパス（予定） 担当者：堀越祐一

1講時 関ヶ原合戦に関する文書を読む

2講時 徳川家康文書を読む

3講時 近世の文書を読む(1)

4講時 近世の文書を読む(2)

5講時 近世の文書を読む(3)／試験

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

本学テキスト『史料演習』、漢和辞典（任意のもの、電子辞書等可）、筆記用具（Bの鉛筆）、ノート、くずし字辞典（手持ちのものがあれば持参、新規購入の場合は参考文献にあげたものを購入のこと）

【b日程（東京）】

本学テキスト『史料演習』、国語辞典（任意のもの、電子辞書可）、筆記用具（必ず鉛筆を用意してください）、ノート、くずし字辞典（手持ちのものがあれば持参、新規購入の場合は参考文献にあげたものを購入のこと）

●その他

- ・グループに分かれて学習することになります。グループは、個々の学習進度を鑑みて決定します。あらかじめご了承ください。
- ・本科目の実習では江戸時代に書かれた古文書を実際に使用しますので、以下のことを厳守してください。
 - ①授業中は教室内での飲食はしないでください。
 - ②筆記用具は鉛筆のみ（※ボールペン等のインクの出るもの・シャープペンシル・消しゴムは一切不可）。
 - ③服装については、衣服が接触して古文書を痛める、作業の妨げになる等のないよう、動きやすいものを着用してください。履物は万が一の転倒を防ぐためスニーカー等のかかとのないものにしてください。また、指輪・ネックレス・ブレスレット等のアクセサリー類や腕時計は外し、爪は短く切っておきましょう。マニキュアは厳禁です。また、髪の毛の長い方はまとめてください。
- ・授業計画の内容は、事情により若干変更する場合があります。
- ・授業の理解を深めるために、事前に「歴史遺産Ⅲ-3」の受講をおすすめします。

TR	歴史遺産学基礎講義 京都学	科目コード： 52620
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度まで開講していた「京都学」(T4)、2018年度までに「歴史遺産基礎講義2」(T2)の単位を修得済みの場合、履修不可	
履修方法	レポート課題(合格後)→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	北康宏*、青谷美羽、岩田真由子	

科目概要と到達目標

京都は、古代から現代に至るまで、新しい外来の文化に常に敏感であり続け、それらを受容・熟成して独自の文化を生み出してきました。それと同時に、生み出した文化や伝統を単純に否定することなく大切に保存することにも努めてきました。この科目は、『京都学』をテキストとして京都の歴史について理解を深めていただくとともに、課題レポートの作成を通して京都文化のダイナミズムについて学んでいただくこととなります。レポート課題は転換期における京都に関するものです。京都文化を固定的なイメージで捉えるのではなく、文化創造の歴史的位相で捉え直してください。各課題とも【ステージ1・2・3・4】の作業の成果をレポートにまとめてください。基礎的事実の確認や文献の比較、自分の考えのとりまとめの作業を通じ、レポートの作成方法を学びましょう。また、レポート作成を通して、註の付け方など論文の作法を習得してください。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解(課題の趣旨を正しく理解しているか)
2. 記述の正確さ(参考文献の内容を正しく理解したうえで、正確な記述ができているか)
3. 具体性と論理性(具体的な事例や史料に即しつつ、論理的な議論の展開ができているか)
4. 【ステージ1・2・3・4】の作業の成果をレポートにまとめ、参考文献一覧と註を付していること

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題(50%)と単位修得試験(50%)により評価します。

なお、テキストの情報をまとめるだけのものはレポートではありません。基本的にはテキストに加え、①参考文献[A]と②[B1]・[B2]のどちらか、の2冊を読み、ステージに従って論述してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『京都学』本学テキスト
参考文献・URL	本シラバスの【課題の内容】の欄、テキスト『京都学』のpp.184～186「参考・関連文献一覧」、各課題の参考文献の末尾の参考文献一覧、を参照

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） <p>※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。</p>
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） <p>※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。</p>

課題の内容

以下1～4より、2問（2つの時代）を選択し、1つの時代につき1,600字程度のレポートをそれぞれ作成し提出してください（2つの時代をあわせて3,200字程度のレポート作成）。
※選択した2つの設問のうち、設問番号と時代（例：1. 古代）をレポート本文1行目に記入すること。

1. 古代（奈良時代～平安時代前期中期）

平安京とそこに展開した諸文化について、次のテーマ①②から1つを取り上げて論じてください。

■テーマ①平安京の都城から都市への変化（『京都学』第1章第1節・第2節・第5節）

平安京という人工的に設定された「都城」は、流通経済の発展や新たな人的ネットワークの形成により京都という「都市」へと脱皮していきます。この変化の様相について論じてください。

【参考文献】

[A] 古瀬奈津子『撰関政治 シリーズ日本古代史⑥〈岩波新書〉』（岩波書店、2011年）pp.116～134

[B1] 脇田修・脇田晴子『物語 京都の歴史一花の都の二千年一〈中公新書〉』

（中央公論新社、2008年）pp.33～63

[B2] 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』

（岩波書店、2014年）pp.1～36、49～70、92～105

【ステージ1】平安京の①造営者②遷都の理由③構造について調べましょう。

【ステージ2】平安初期と平安時代中期以降（撰関期以後）における官衙町（諸司厨町）の①機能②居住者についてそれぞれ調べ、町の性格がどのように変化するのか確認しましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、[A] と比較し、【ステージ2】で調べた官衙町の

変化がなぜ起こったのか、その考えの違いに注目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら自分の考えをまとめましょう。

■テーマ②唐風文化の隆盛と国風文化の形成（『京都学』第1章第4節）

平安貴族は漢詩などの唐風文化を好む一方、和歌などの国風の文化を育み、唐風と国風とは互いに影響しあい発展しました。唐風文化と国風文化との関係について漢詩と和歌との関係から論じてください。

【参考文献】

〔A〕大津透『日本の歴史06 道長と宮廷社会〈講談社学術文庫〉』（講談社、2009年）pp.133～173

〔B1〕川尻秋生『平安京遷都 シリーズ日本古代史⑤〈岩波新書〉』（岩波書店、2011年）pp.46～88、118～136

〔B2〕鈴木健一『天皇と和歌一國見と儀礼の一五〇〇年一〈講談社選書メチエ〉』（講談社、2017年）pp.30～75

【ステージ1】奈良時代に①貴族が好んだ花②漢詩の詩作が広がる契機、観桜の宴の③開始年④開催した天皇⑤場所⑥よまれたのは漢詩か和歌か、⑦内裏の紫宸殿前に桜が植えられたのはいつ頃か、⑧嘉祥四年（八五一）に藤原良房が開催した仁明天皇を追悼する観桜の宴でよまれたのは漢詩か和歌か、について調べましょう。

【ステージ2】中国の詩人白居易の漢詩は平安時代の和歌に影響を与えましたが①その具体例（一つ）②貴族が白居易の漢詩を愛好した理由について調べましょう。

【ステージ3】〔B1〕・〔B2〕のどちらかを選び、〔A〕と比較し、漢詩と和歌との関係をどのように評価すべきか、その考えの違いに注目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら自分の考えをまとめましょう。

2. 古代～中世前期（平安時代中期後期～鎌倉時代）

平安京の中世都市京都への変化について、次のテーマ①②から1つを取り上げて論じてください。

■テーマ①京外の宗教空間－白河－（『京都学』第1章第5節、第2章第2節）

院政期に顕密仏教に対する王家の信仰が高まり、京外の白河の地に六勝寺、そして院御所も建立され、白河は宗教・都市空間として発展します。この発展について法勝寺を中心に論じてください。

【参考文献】

〔A〕美川圭『白河法皇 中世をひらいた帝王〈NHKブックス〉』（日本放送出版協会、2003年）pp.196～242

または同『白河法皇 中世をひらいた帝王〈角川ソフィア文庫〉』（角川学芸出版、2013年）

〔B1〕高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』（岩波書店、2014年）pp.71～105

〔B2〕桃崎有一郎『平安京はいらなかった－古代の夢を喰らう中世－〈歴史文化ライブラリー〉』（吉川弘文館、2016年）pp.182～243

【ステージ1】六勝寺と院御所白河南殿・北殿の①造立者②造立年について調べ、完成した順番を確認し、何十年かけて白河の地に院御所・寺院群ができたのかイメージしましょう。

【ステージ2】法勝寺の①造立目的②費用の負担者③伽藍配置④金堂の本尊⑤八角九重塔の造立年と規模について調べ、法勝寺の宗教的性格について確認しましょう。

【ステージ3】〔B1〕・〔B2〕のどちらかを選び、〔A〕と比較し、白河院はなぜ法勝寺に巨大な八角九重塔を造ったのか、その考えの違いに注目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら自分の考えをまとめましょう。

■テーマ②京外の都市化－六波羅－（『京都学』第1章第5節、第2章第1節・第4節）

六波羅の地には、院政期に平氏の本拠地や院御所が営まれ、鎌倉時代には六波羅探題が設置されます。この京外に形成された都市空間六波羅の発展について、院政期を中心に論じてください。

【参考文献】

〔A〕高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』（岩波書店、2014年）pp.71～90

〔B1〕美川圭『院政－もうひとつの天皇制－〈中公新書〉』（中央公論新社、2006年）pp.107～138

〔B2〕遠藤基郎『後白河上皇－中世を招いた奇妙な「暗主」－〈日本史リブレット〉』（山川出版社、2011年）pp.1～30

【ステージ1】六波羅の①葬送地鳥部野との関係②交通の要所としての性格について調べましょう。

【ステージ2】六波羅屋形と法住寺殿の①造営者②機能③構造についてそれぞれ調べましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、 [A] と比較し、【ステージ2】で調べた法住寺殿がなぜこの場所に作られたのか、その考えの違いに注目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら自分の考えをまとめましょう。

3. 中世後期～近世前期（室町時代～江戸時代前期中期）

中世の都市から近世の都市へ変化する京都について、次のテーマ①②から1つを取り上げて論じてください。

■テーマ①祇園祭と都市民（『京都学』第2章第5節、第2章6節）

中世後期の京都では、都市空間が大きく変容すると同時に、近世の京都を担う都市民が力を持ちはじめます。同じころにひとつの画期を迎えた祇園祭を主な事例として、この時期の都市空間と都市民の変化について論じてください。

【参考文献】

[A] 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』（岩波書店、2014年）pp.179～191

[B1] 河内将芳『祇園祭と戦国京都〈角川叢書〉』（角川書店、2007年）pp.168～198

[B2] 脇田晴子『中世京都と祇園祭〈読みなおす日本史〉』（吉川弘文館、2016年）pp.159～209

または同『中世京都と祇園祭〈中公新書〉』（中央公論新社、1999年）pp.162～215

【ステージ1】中世後期に成立した上京・下京という二つの区域について、①成立の背景②位置関係③それぞれの性格を調べましょう。

【ステージ2】同じころ成立した両側町について①特徴②共同体としての役割を調べましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、 [A] と比較し、【ステージ2】で調べた両側町と、祇園祭の山鉦巡行の関わりについて、その考えの違いに注目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら、自分の考えをまとめましょう。

■テーマ②御土居と京都の再編（『京都学』第2章6節、第3章2節）

天下統一を達成した豊臣秀吉は、長く続いた戦乱で荒廃した京都の復興に着手するや、都市空間を一新すると言ってもよい、大規模な再編を行いました。秀吉の京都再編について、論じてください。

【参考文献】

[A] 村井康彦『京都史跡見学〈岩波ジュニア新書〉』（岩波書店、1982年）pp.190～199

[B1] 池上裕子『日本の歴史15 織豊政権と江戸幕府〈講談社学術文庫〉』（講談社、2009年）pp.260～270

[B2] 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』（岩波書店、2014年）pp.199～210

【ステージ1】秀吉が造営した聚楽第について、①位置②特徴③役割を調べましょう。

【ステージ2】秀吉が築いた御土居について①規模②役割を調べましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、 [A] と比較し、秀吉が御土居の内側で行った都市空間の再編について、その考えの違いに着目して確認しましょう。

【ステージ4】テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら、自分の考えをまとめましょう。

4. 近世後期～近代（江戸時代後期～明治・大正・昭和）

京都の幕末と近代化とについて、次のテーマ①②から1つを取り上げて論じてください。

■テーマ①幕末の政治都市京都（『京都学』第4章第1節）

御所と二条城は、現在、京都の文化的景観を形作る大きな要素となっています。このふたつの場が、幕末の政治都市京都において果たした役割について述べてください。

【参考文献】

[A] 脇田修・脇田晴子『物語 京都の歴史一花の都の二千年一〈中公新書〉』（中央公論新社、2008年）pp.274～283

[B1] 佐々木克『幕末史〈ちくま新書〉』（筑摩書房、2014年）pp.84～124

[B2] 藤田覚『天皇の歴史6 江戸時代の天皇〈講談社学術文庫〉』（講談社、2018年）pp.289～307

【ステージ1】 将軍徳川家茂の上洛について、①政治的な意義②入洛後の動向を調べましょう。

【ステージ2】 禁門の変について①発生の背景②事態の経過③京都の市街地への影響を調べましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、[A] と比較し、文久三年八月に御所で起こった政変について、その考えの違いに着目して確認しましょう。

【ステージ4】 テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら、自分の考えをまとめましょう。

■テーマ②古都の再生（『京都学』第4章第2節、第4章3節）

明治時代になり、一度は都市としての活気を失いかけた京都は、府の勸業政策を軸にしながら近代化の道をあゆみます。琵琶湖疏水の建設など、古都の再生に関わる事業と明治の京都について述べてください。

【参考文献】

[A] 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史〈岩波新書〉』（岩波書店、2014年）pp.241～247

[B1] 丸山宏ほか編『みやこの近代』（思文閣出版、2008年）pp10～17

[B2] 國雄行『博覧会と明治の日本〈歴史文化ライブラリー〉』（吉川弘文館、2010年）pp138～151

【ステージ1】 琵琶湖疏水について、①建設にいたる経緯②建設の目的③建設の経過を調べましょう。

【ステージ2】 京都博覧会について①開催の主体②会場③出品傾向を調べましょう。

【ステージ3】 [B1] ・ [B2] のどちらかを選び、[A] と比較し、琵琶湖疏水と博覧会のいずれか一方について、その考えの違いに着目して確認しましょう。

【ステージ4】 テーマに関して自分の関心のある事柄2点をかかげ、【ステージ1・2・3】の作業と関わらせながら、自分の考えをまとめましょう。

TR	歴史遺産学I-1 歴史遺産学入門	科目コード： 52624
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「宗教文化史」の単位を修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	比企貴之*、栗本徳子	

科目概要と到達目標

歴史文化の諸相に、宗教が与えた影響は計り知れません。日本における宗教や思想の歴史を押さえながら、課題では、具体的な神社、寺院、文化遺産などについて歴史的に取り上げ、宗教や思想の実態としてのありようを捉えていくことを目指します。また、試験ではテキストの学習によって日本の宗教史の概要を理解していることを確認します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解（課題の趣旨を正しく理解しているか）
2. 記述の正確さ（参考文献の内容を正しく理解したうえで、正確な記述ができているか）
3. 具体性（具体的な事例や資料に即しつつ、論じられているか）
4. 文章の構成（情報の羅列ではなく、自分なりに考えた論理的な構成となっているか）
5. テキスト以外の文献を活用し、かつその書誌情報を参考文献一覧、註を付して示しているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	末木文美士『日本宗教史〈岩波新書〉』（岩波書店、2006年） ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、ガイドの「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	山折哲雄・大角修編著『日本仏教史入門-基礎史料で読む〈角川選書〉』（角川学芸出版、2009年） 岡田荘司編『日本神道史』（吉川弘文館、2010年） 義江彰夫『神仏習合〈岩波新書〉』（岩波書店、1996年）

参考文献・URL	<p>国立国会図書館のサーチ・ナビも参考にしてください。 https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-101063.php なお、地元の寺院や神社・遺跡などをテーマに選んだ場合、自治体史（『〇〇県史』・『〇〇市史』など）に必ずあたります。 ※以上は例示です。各自のテーマに合わせて、適切な文献を探してください。ただし、インターネットの情報をそのまま引用、コピーすることは認めません。</p>
----------	---

レポート課題 課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

以下の2つの設問に取り組むこと。

設問1. テキスト（末木文美士『日本宗教史〈岩波新書〉』岩波書店、2006年）の講読を通じて、神仏や仏教の歴史について自身の認識が、テキストを読む以前とイメージが変わった点について1,000字程度で述べよ。

設問2. 身の回りの宗教文化にかかわるモノ・コトを取り上げて、宗教文化の歴史の観点からその説明を2,200字程度でおこないなさい。

TR	歴史遺産学I-3 考古学研究	科目コード： 52626
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2009年度までに「歴史遺産学研究3」、2014年度までに「考古学研究」の単位を修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	石神裕之*	

科目概要と到達目標

考古学とは、過去の人類の残した「モノ」を分析することで、人類が作り出した文化の性格や変化を明らかにすることを目的としています。考古資料は「解釈」することを通じて初めて、歴史を明らかにすることができます。そうした「解釈」の作業においては、「モノ」の持っている多種多様な資料性に関して、検証可能な客観的手法を用いて分析していくことが不可欠です。この科目では、考古資料の分析方法と解釈のあり方を学ぶとともに、その分析の結果から明らかとなった歴史や文化について理解を深めていきます。本科目では、考古資料の分析手法を学び、そこから「解釈」された「歴史」を理解すること、そして歴史研究における考古学の果たす役割を学び、歴史復元の方法の多様性を理解することを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解（課題の意味をよく理解し、それにふさわしい考察をしているか）
2. 表記と文章表現の正確さ（客観的な文章で表現し、正確な文字を使っているか）
3. 文章の構成（レポートの構成は情報の羅列ではなく、自分なりに考えた結論が示されているか）
4. 具体性（自分で調べて得た情報や意見、考えが述べられているか）

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50％）と単位修得試験（50％）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	藤本強『考古学でつづる日本史』（同成社、2008年） ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、ガイドの「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会、1988年） 鈴木公雄『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会、2005年）

参考文献・URL	<p>小林達雄『考古学ハンドブック』（新書館、2007年）</p> <p>石神裕之『47都道府県・遺跡百科』（丸善出版、2018年）</p> <p>※『史跡で読む日本の歴史〈1～10〉』（吉川弘文館、2009年～2010年）のシリーズは、史跡・遺跡を中心とした通史で、新しい成果を知る手がかりになると思います。</p>
----------	---

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） <p>※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。</p>
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） <p>※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。</p>

課題の内容

以下の課題について、レポートを作成してください。

テキストのなかでは、水田稲作農耕の渡来とともに、「北の文化」、「中の文化」、「南の文化」と著者が定義する、様相の異なる文化が日本列島に形成されていったことが述べられています。とくに日本列島は縄文文化の段階では、概ね斉一的な文化の様相を呈していたのに対して、水田稲作農耕を基軸とした文化が渡来した結果、本州、四国、九州の大部分へと広まり、新たに弥生文化（「中の文化」）が成立すると著者は述べています。

では現在の「日本文化」につながるとされる「中の文化」を形成した水田稲作農耕の文化は、なぜ多くの縄文文化の人々に受け入れられたのでしょうか。それぞれの文化の特徴を整理したうえで、その理由を考察してください。渡来の経緯や定着の過程などを具体的に記述してください。

TR	歴史遺産学II-1 文化財保存修復概論	科目コード： 52629
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「歴史遺産学演習1」の単位を修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	石神裕之*、内田俊秀	

科目概要と到達目標

日本の文化財は、多種多様な特質をもっています。この授業では、そうした文化財の「モノ」としての側面に焦点を絞り、とくに保存科学について基礎的な事項を学びます。日本の文化財の特色として、木材や紙、絹、木綿といった織物など、材料に有機質のものが多く使われています。また無機質の材料である石や鉄、銅といった金属もよく使われており、こうした素材が一つの文化財に複数使用されている事例も存在します。こうした文化財を将来に伝えていくためには、材料の特性や使用による傷み、劣化のメカニズムなどを的確に理解しておくことが不可欠です。文化財に使われている多様な材料（既に利用されなくなったものも含めて）の特性を理解するとともに、文化財の制作技術の概要や文化財の保存に関わる分析手法や修理技術について理解することを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解（課題の意味をよく理解し、それにふさわしい考察をしているか）
2. 表記と文章表現の正確さ（客観的な文章で表現し、正確な文字を使っているか）
3. 文章の構成（レポートの構成は情報の羅列ではなく、自分なりに考えた結論が示されているか）
4. 具体性（自分で調べて得た情報や意見、考えが述べられているか）

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『保存科学概論』本学テキスト
参考文献・URL	登石健三『古美術品材料の科学』（第一法規出版、1979年）

参考文献・URL	窪田蔵郎『鉄の文明史』（雄山閣、1991年） 田辺三郎助他編『美術工芸品の保存と保管』（フジ・テクノシステム、1994年） 平尾良光・山岸良二編『文化財を探る科学の眼1 化石・骨・木製品を探る』（国土社、1998年） 平尾良光・戸津圭之介編『文化財を探る科学の眼5 仏像・漆工芸品・染織品を探る』（国土社、2000年）
----------	--

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

日本の文化財の中でも、最も用いられている素材に木材が挙げられます。そこで、遺跡から検出される「出土木製品」について、その修復・保存に際して重要となる「素材の性質」について概要を説明した上で、「劣化」や「損傷」の種類、それらが起きた「原因」を説明してください。つぎに出土木製品の「保存処理」や「修理」の方法について説明をくわえ、こうした有機質の文化財を修理・保存していくうえでの課題や意義について、論じてください。

TR	歴史遺産学II-3 世界遺産学	科目コード： 52631
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「歴史遺産学演習3」の単位を修得済みの場合、この科目を履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	石神裕之	

科目概要と到達目標

現在、日本には世界遺産に登録されている有形文化遺産が17件あります。これらの文化遺産が登録された理由や経緯はそれぞれに異なり、またその後の活用のあり方も異なっています。とくに世界遺産登録後、著名な観光地となり、地元にとって利益と同時に不利益がもたらされている事例が存在することも事実です。そうしたまちづくりとの関わりも踏まえつつ、地域社会における世界遺産の意味や保存、維持の方法について考えます。この科目では、日本の文化遺産が世界遺産に登録された意味を理解するとともに、世界遺産登録が地域社会（まちづくりなど）に与えた影響を考察し、理解することを目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解（課題の意味をよく理解し、それにふさわしい考察をしているか）
2. 表記と文章表現の正確さ（客観的な文章で表現し、正確な文字を使っているか）
3. 文章の構成（レポートの構成は情報の羅列ではなく、自分なりに考えた結論が示されているか）
4. 具体性（自分で調べて得た情報や意見、考えが述べられているか）

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	毛利和雄『世界遺産と地域再生一問われるまちづくり』（新泉社、2011年） ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	稲葉信子「世界遺産講座1～6」『文化庁月報475～485（但し隔号）』（ぎょうせい 2008年～2009年） 藤木庸介編著『生きている文化遺産と観光』（学芸出版社、2010年）

参考文献・URL	ユネスコ協会連盟編『世界遺産年報』日本ユネスコ協会連盟（隔年刊・編者や出版社の異なる年があります） 「文化遺産オンライン」 http://bunka.nii.ac.jp/special_content/world 「日本ユネスコ協会連盟」（世界遺産活動の頁） http://www.unesco.or.jp/isan/
----------	--

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

世界遺産リストに登録されるためには、10項目の登録基準のうち1つ以上の項目に合致しなければなりません。そのうち文化遺産に関するものは6項目あります。この点をテキストで確認したうえで、次に挙げる文化遺産4ヶ所から1ヶ所を取り上げ、どの登録基準に合致しているのかを述べてください。その上で、あなたが関心を持った項目を1つ取り上げて、その項目が登録された構成資産のうち何にあたるのか、また日本国内の評価とイコモスの評価では違いがあるかなど、具体的事例を挙げて、あなたの意見を述べてください。

- ①平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園および考古学的遺跡群
- ②古都奈良の文化財
- ③富士山
- ④富岡製糸場と絹産業遺産群

<h1>TR</h1>	<h2>史料講読応用</h2>	科目コード： 52632
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文献講読1」の単位を修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	野村朋弘*、大関真由美、平澤加奈子	

科目概要と到達目標

歴史を研究するためには、文字史料を読みこなすことが必要不可欠です。古代・中世・近世・近代の各史料は、それぞれの時代によって同じ漢文でも、文法の差があります。また、史料集を読む際、活字化されている史料は、白文（訓点の振られていないもの）です。訓点は、読み手が振り、内容を理解するものなのです。「史料講読基礎」では、訓点の付いた史料を読む力を養いましたが、この「史料講読応用」では、白文の史料について、自ら訓点を振り、意味を理解することを目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 史料に訓点を振る（史料を正確に読み下すことができているか）
2. 史料の逐語訳（課題史料の意味を正確に把握できているか。また、史料に記された人名・場所などの比定をはじめ、内容について調べられているか）
3. 独自の観点（課題史料を実際に自分で読むことで、その史料の持つ歴史的背景や重要性を理解し、そこから筆者自身の見解を得ることができたか）
4. 表記と文章表現の正確さ（文章表現・文章表記は正確か）

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『京都学史料』本学テキスト 『京都学』本学テキスト ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	本学テキスト『京都学史料』『京都学』に記載の参考・関連文献一覧を参照 本学テキスト『史料演習』 沖森卓也編『漢文資料を読む』（朝倉書店、2013年）

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再提出用添削指導評価書 （『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙）

課題の内容

「テキスト・教材学習」画面の①～④までの古代・中世・近世・近代のいずれかの史料を1つ選び、まず史料の内容や時代背景を把握し、それらを踏まえつつ読み下し文と逐語訳を、【留意点】の指示に従って記入しなさい。

※選択した設問の番号と時代をレポート1行目に記入すること。

【留意点】

- ・ 史料は白文（レ点、一二点などの訓読記号が付されていない）です。まずは、史料に訓読記号を付しどのように読み下すべきかを考えてみて下さい。
- ・ 読み下し文と逐語訳に取り組むには、語句の説明や、時代背景なども必要です。それらを十分調べ取り込んだ形でレポートにまとめて下さい。逐語訳に取り入れて頂いても結構ですし、入れづらいようでしたら、例えば、1. 読み下し、2. 逐語訳、3. 語句説明、4. 補足説明（時代背景など）といった形式でも結構です。
- ・ 史料の逐語訳には、主語および人名・地名などの固有名詞を適宜補い、まとめて下さい。逐語訳と意識は異なります。厳密に一語一語を丁寧に訳していくことが逐語訳になります。
- ・ 課題に取り組むヒントを記した【学習のポイント】を適宜参照して課題に取り組んで下さい。

TR	古文書入門 文献史料に慣れ親しむ	科目コード： 52633
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31	
単位修得試験	有	
担当者	比企貴之*、野村朋弘、角田朋彦	

科目概要と到達目標

文献史料を読みこなすためには、漢文読解能力のみならず、古文書学や、くずし字の修得が必要不可欠になります。本科目では、テキスト科目の「史料講読基礎」と「史料講読応用」を踏まえて、史料を読みこなすため、古文書学を学びつつ、くずし字について馴れることを目的としています。ご自身で文献史料にあたり、調べていくにはどうすればよいか、能動的にかつ実践的に学んでいきましょう。

評価基準と成績評価方法

- 1 古文書の内容把握の正確さ
- 2 文献などにあたるリサーチ能力
- 3 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- 4 授業の趣旨および課題内容の理解

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

全課題の平均と試験の平均

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘・角田朋彦『古文書入門』、『庭訓往来』（双方とも電子テキスト）
参考文献・URL	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993年） 日本歴史学会編『概説古文書学 古代中世編』（吉川弘文館、1983年） 日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館、1989年）

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

「テキスト・教材学習」⇒「教材提供」⇒「4.レポート課題用史料」に、取り組んで頂く史料画像を掲示します。

史料画像をみて以下の内容に取り組んで下さい。

1. 史料画像をみて翻刻を行う。
2. 読み下し文と、現代語訳を行う。
3. そして1.2を行った史料について、どのように調べると史料が理解出来るか、その調べるプロセスをまとめて下さい。（1600字程度）